

成果発表 配布資料②

実践団体No. 2 千葉県立東金特別支援学校

○防災シンポジウム

- ・案内パンフレット P 1
- ・参加者一覧 P 2
- ・アンケート P 3～7

○第一回地域との合同防災訓練（寄宿舍夜間 地域ボランティア部会 大学生）

- ・指導計画 P 8
- ・アンケート P 9

○第二回地域との合同防災訓練（児童生徒会集会 地域ボランティア部会 長寿会）

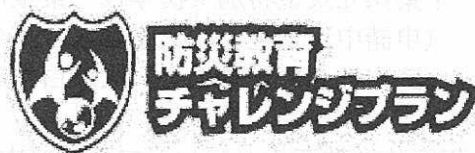
- ・指導計画 P 10～11

○第三回地域との合同防災訓練（子ども会 消防団 東金市 地域ボランティア部会）

- ・指導計画 P 12～15

○防災教育公開授業（選択美術 自主通学生徒集会）

- ・選択美術 指導案 P 16～17
- ・自主通学生徒集会 指導案 P 18～19
- ・アンケート P 20～22



○中学部 生活単元学習 指導計画 P 23

○地域の方々へ活動の報告と義援金の依頼 P 24～25

○地域の方々へアンケート（保護者・高等部生徒へも実施 現在集計中） P 26

防災シンポジウム

～みんなで考えよう地域防災～

千葉県立東金特別支援学校

と き 平成 23 年 8 月 23 日 (火)
13:00～15:45 (開場 12:00)
ところ 東金文化会館 大ホール

平成 24 年度に 40 周年を迎える本校は、「防災発信・防災交流～北之幸谷から二市四町へ～」をテーマとして、防災教育に取り組んでいます。地域の防災力を高めるための連携や防災に関する情報の共有と発信について、みんなで考える機会にしたいと考えています。

- 講演Ⅰ 「地域との連携を深める防災教育について」 13:00～(50分)
群馬大学大学院 工学研究科 社会環境デザイン工学専攻 教授
広域首都圏防災研究センター長 片田 敏孝 (かただ としたか) さん
- 講演Ⅱ 「元禄地震・大津波等から学ぶ防災について」 13:50～(40分)
大網白里町郷土史研究会会長 元県立東金高等学校長
郷土史・元禄地震に関する調査研究等多数 古山 豊 (こやま ゆたか) さん
- シンポジウム 「みんなで考えよう地域防災」 14:45～(50分)
*自助共助を地域の力で *情報の共有・発信のために～防災ユニバーサルねっと～
シンポジスト 片田敏孝さん 古山豊さん 北之幸谷区長:小堀紘一さん
山武市ボランティア・市民活動センター:須田 高さん
コーディネーター 東金特別支援学校長:千葉 晃

主 催 千葉県立東金特別支援学校 東金市 東金市教育委員会
後 援 (申請中) 東金市北之幸谷区 東金市社会福祉協議会 嶺南地区社会福祉協議会
山武市社会福祉協議会 大網白里町社会福祉協議会 山武圏域地域自立支援協議会 他

2011 年度防災教育チャレンジプラン (内閣府)・平成 23 年度地域との連携を深める防災教育公開事業 (千葉県) の支援により実施しています。また、学校を核とした県内 1000 か所ミニ集会を兼ねています。



問い合わせ 千葉県立東金特別支援学校 0475-52-2542
申込み方法 FAX 0475-55-4448 か E-mail togane-sh@chiba-c.ed.jp で。
FAX 申し込み用紙は、東金特別支援学校ホームページからダウンロードできます。
<http://www.chiba-c.ed.jp/togane-sh/>
参加は無料です。定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

8. 2 3 千葉県立東金特別支援学校 防災シンポジウム参加者

所 属	人数	所 属	人数	所 属	人数
東金市内一般	4 7	県議会	2	印旛特支	1
東金市外 山武 八街 横 芝九十九里	1 0	船橋市防災課	2	流山高等学園	1
東金市各地区自主防災会	2 0	東金市議会	2	市立千葉養護	1
		四街道市議	1	長生特支	4
		東金市 副市長 総務部長 消防安全 社会福祉	9	夷隅特支	2
東金社協	4	横芝光町	1	君津特支（手話）	1
嶺南（北之幸谷含）社協	3 6	大網白里町	1	富里特支	1
山武健康福祉センター 次 長 部長	4	東総教育事務所	2	柏特支	1
大網 社協	1	東金市教育委員会	1	桜ヶ丘	2
さんぶエリアネット	1	山武市教育委員会	2	仁戸名特支	1
ロザリオ（東総）	5			安房特支	1
ロザリオ（香取）	1	大平保育所 所長	1	須和田支援	1
山武 成東福祉作業所	1	鳴浜保育所 所長	1	市原特支	1
ゆりの木荘	1	緑海保育所 所長	1	千葉豊	1
房総平和園	2	成東保育所 所長	1	槇の実特支	1
NPO野花の会	1	なんごうこども園 園長	1	市立船橋特支	1
NPOフレンズ	1	まつおこども園 園長	1	市川特支	1
聴覚障害者協会（手話）	2	大総保育所 所長	1	つくし	1
東金身体障害者協会	4	横芝保育所 所長	1	千葉盲	1
カトレアの会	2	上堺保育所	1	千葉特支	1
		城西幼稚園 園長	1	袖ヶ浦特支	1
		嶺南幼稚園 園長	1	我孫子特支	1
		東金幼稚園 園長	1	銚子特支	2
		上堺小学校 校長	1		
		東小学校	2		
		増穂小	1	講師	4
大網中	2	山武 睦岡小	1	本校職員	7 4
光中	1	桐生、館林市小学校	3	本校生徒	9
城西大学	1			保護者	1 4
				卒業生保護者	8

計 3 2 6

23. 8. 23 千葉県立東金特別支援学校防災シンポジウムアンケート集計
アンケート回収（総数103）

質問①：今回のシンポジウムに参加していかがでしたか？

とてもよかった	よかった	もの足りなかった	未回答
72名（70%）	27名（26%）	1名（1%）	3名（3%）

質問②：ご自身や、ご自身の所属、又は地域において「できること」「できそうなこと」を、今回の講演から考えたことがあれば記入してください（例：防災ボランティア、消防団への参加等）。

- ・地域でのボランティアの情報を集めて自分自身でできることに参加できればよかった。
- ・視覚障害、聴覚障害の方の情報保障という点について丁寧に扱ってあげた方がよい。
- ・避難の三原則を市のハザードマップを使って指導したい。知識から姿勢の防災教育へ転換したい。
- ・自分の命を守る、自分たちにできることを考える防災教育を小学校で行いたい。
- ・人と人とのつながりが大切であることを学んだ。ボランティアに協力したい。
- ・地域住民の把握。避難が一人で難しい人の把握と避難協力者の選定。 ・防災教育の推進
- ・高齢者、福祉課、社協、長寿会が連絡を取っている。長寿会、独居老人との地域との絆大切。3. 11では地区の独居者を近所が把握してくれた。 ・防災ボランティア（12） ・消防団
- ・日吉台地区は3. 11をふまえ、大規模な防災訓練を計画中。 ・よく考えてみたい。
- ・地域との防災体制の連携。 ・日常の積極的なご近所さんへの声かけ。 ・防災計画の見直し。
- ・大津波想定時の避難場所の確認。家族との話し合い。古山先生の話をもっと聞きたかった（2）。行政に伝えてほしい。 ・消防団や議員や防災関係者をもっと集められるとよいと思います。
- ・地域住民と連携した合同防災訓練の実施を検討したい。学校主催の訓練と地域主催の訓練と両方あるとよい。 ・避難三原則を家族で話し合い、友だち達にも広めたい。
- ・防災ボランティアへの参加はできそうですが、もっと自分自身防災に対する姿勢を考えていきたい。
- ・地域のボランティアに所属しているが、近所づきあいが薄いので声を掛けることが大事だと思った。 ・どこに逃げるかを決めておく。 ・釜石市の実践を聞いて教育の力が大きな影響を与えることが実感できた。防災教育、防災体制を見直したい。 ・立場の違う方の話が聞けてよかった。地域の方も防災について不安なのですね。 ・「てんでんこ」はこの地域でも必要なことです。東北の市町村との相互防災協定などを結んでいくことも大切です。前任地でDMAT創設から携わり、それ以前にも医療援護支援隊として多く被災現場で活動し得た現場の経験を活かし、語り、行政地域のみならずあらゆる垣根を取り外し、防災減災の取り組みを広域で連携し正面から進めたいと願い模索する日々です。 ・学校での教育も必要ですね。親も子供も。
- ・地域と一体となった防災訓練。訓練が目的でなく地域とのつながりを大切にすること。
- ・地区の減災を地区で考える。
- ・炊き出し等の避難訓練支援。障害者やお年寄りの安否確認。 ・防災教育の重要性を痛感した。
- ・防災ユニバーサルネットでできることを協力したい。 ・防災教育 ・自助共助はいつも考えているが、実際何をしたらよいかわからない。 ・救急法を普段学んでいるので生かしていきたい。

- ・実際の地域活動や防災教育に何らかの形で参加していきたい。
- ・片田先生の御指導はTV等で拝見させていただいておりました。長い時間をかけて地域の方々の防災意識への熱い深いご指導が、釜石市が元気に復活していける若い人たちの命をたくさん救ってくださったこと、改めて敬意を表したいと思います。現在、歩行困難の老人を抱えた私は、隣近所の昔からのご厚意にすぎるしかないと思っています。 ・避難訓練の充実に活かしたい。
- ・子どもへの防災教育の必要性を強く感じた。 ・最善を尽くせ、率先避難者たれ、子どもたち地域住民とのコミュニケーション ・特別支援学校の生徒ですが、できることをやりたい。
- ・「津波てんでんこ」はとても考えさせられました。伝えていきたい。 ・安否確認、名簿の作成。
- ・チェーンソー、ユンボなどの特殊工具の把握。 ・近所の高齢者の安否確認
- ・園児の安全を第一に考えて、地域とのつながりの大切さを再確認しました。
- ・高齢、障害等により避難が難しい人たちへの連絡、支援ボランティア。 ・地域と学校の合同訓練
- ・所属の学校の地域とのつながりがどうなっているかあまり知らないので意識を向けてみたい
- ・最善を尽くせ、率先避難者たれは我々でもできることであると感じた。北之幸谷でも津波や液状化の可能性はあるわけで、その自覚が第一歩だと思った。釜石市の防災教育の例を取り入れたいと思った。
- ・それぞれが自分でできることを行う。 ・なかなか動くことができないのですが、今回のようなお話を人に伝えることはできるかなと思います。 ・北之幸谷は警察署がありながら地区の連携が取れておりません。防災についても若い世代に伝わっておりません。若い世代の防災団体や消防団への参加をしていけたらよい。 ・地域のみなさんとのふれあいを考えていかなければならない。想定にとらわれずその時にできる最善の対応・行動をとれるようにしたいと思った。
- ・地域のお年寄りの支えになる。炊き出しの協力 ・防災マニュアルの見直し、避難場所の選定と移動手段を現場に即して考え、実行していく。 ・地域への講話で津波避難の心構えを伝えたい。
- ・子どもたちへ伝える。障害者団体へ伝える。 ・大学において震災の意識づくりを改めさせる。
- ・震災当日、高齢の方や、留守番でいた子どもたち声かけライフラインの状況確認を自転車で回った。 ・今までの防災教育に加えて防災学習の大切さを感じた。いろいろな災害の時に自分の身を守るための学習が求められる。 ・地域としての共通の認識と手順の徹底をはかる。地域を一つの家族として考え、相互の役割等を確認したい。 ・自分の命は自分で守ることが大事だと思いました。
- ・家庭でできること。娘は就労しているので自分の身を守ることを教えるいい時期でした。
- ・地域の避難場所はわかるが、どんな時でも避難できるように家族で話し合っておこうと思いました。
- ・生活の中で障害を持っている子供のことを知ってもらうこと。発達障害や自閉症は一般の人にはまだ理解しにくい障害なので多くの方と交流し理解・協力してもらう環境を作りたい。

質問③今回の大震災で感じたことや思うことを含めて、お気づきの点があれば記入してください。

- ・何度映像を見ても涙が出てしまい悲しいです。 ・想定外が起こることを認識した。
- ・震災時は電車の中でした。この会が通勤に何かあった時のことを考える機会となりました。
- ・うちの子は重い障害をもっています。3. 1 1は児童デイサービスに行っていました。今回は被害がなかったですが、10m以上の津波が来たらどうなるのだろうかと考えさせられました。避難所で生活することになったらうちの子はパニックになるだろうと思いました。
- ・災害が大きければ大きいほど、あわてず長いスパンを考えるべき。一人一人を救うには行政からのトップダウンをスピーディーにしてほしい。 ・防災教育の重要性
- ・津波の場合は「おかしも」は使えないと思いました。指導を工夫しなければいけないと感じた。
- ・園児の安全確保に考えさせられました。地域、保護者との連絡をどのようにするのか。防災マニュアルの見直しをし、作りなおしました。 ・災害状況の情報の把握の重要性を感じた。
- ・自治会の防災組織の立ち上げを推進していきたい ・日頃の地域への参加が役に立つと思った。 ・日々の防災訓練は大切だと感じました。 ・これで大丈夫という考えを改めること。市や地域との連携の大切さ。 ・防災について考え直す必要がある。地域の避難場所の不安。
- ・いつ何時どんなことが起こるかわからないという心構えを日ごろから備えておくようにしたい。
- ・水不足、ガソリン不足等あったのに「過去のこと」「自分たちの生活とは遠いもの」と考えてしまっている人（教員）も多い。今回の震災を記録にして伝承したい。
- ・子どもたちへの防災教育がすごく大切だと感じた。知識ではなく姿勢が大切だと学んだ。
- ・大震災から、日本の良さ、すばらしさについて再認識することができた。日本は必ず復興します。地域一丸となってやっていけると信じています。 ・想定はあくまで目安であること。
- ・津波による被害がいかに大きかったか改めて思いました。自分たちにもいつ災害がふりかかるかわからないので気持ちを改めることができました。 ・スマートフォンが震災時役立ちました。
- ・想定外の震災はいつでも起こりえるので、あわてずに避難できるようにしたい。
- ・実際の場面では、それぞれが勝手な意見を言い始め大変だった。マニュアルがないと大変であると感じた（あっても収集がつかなかった）。県と市町村の行政の壁がありはしないか。特別支援学校と地域住民の関係をきちんと作る必要があると感じる。 ・行政も参加してほしかった。
- ・日ごろからいざという時の準備が必要だと感じた。 ・どこにいて身を守るかの自覚。
- ・映像等により、より現実的なものとして危機意識が高まった。 ・自助ができていますか。
- ・防災教育の大切さ。家族同士での確認。 ・行政頼み以前の自助共助の大切さを感じる。
- ・若い人たちの今まで見えなかった大きな力を感じた。 ・まずは自分の意識から。
- ・移動の困難な生徒たちが通学している中で、登下校時に震災が起きた時の対応を防災教育で行っていききたい。 ・想定外のハザードマップ作り。 ・海に近い学校として東金の取り組みを参考にしたい。 ・繰り返しの訓練で自分や自分より弱いものまで助けられるのですね。子どもへの意識改革により危険を回避する力が備わるのですね。できることをどんどんやっていきたいという思いを強くしました。 ・東金市役所の海拔は8mです九十九里一帯の海拔の表示も必要。
- ・今回のような津波が起こった場合、就学前の子ども達をどのように避難させるか、地域と協力し合うような働きかけをする必要ではないかと考えられました。

・日頃思っていることと行動が実際はかけ離れていて気をつけねばと思う。小さな地震が毎日あるので気が引きしまる。・過去の震災、津波の恐ろしさをつくづく感じた。弱者に手を差しのべたい。地域の連携、助け合いが大事だと思います。・片田先生の講演は素晴らしかったです。東金市やこの地域も大丈夫か…。学校の発表ももう少し長い時間あってもよかった。

・片田先生の防災教育がしっかりと子どもたちに植え付けられており、命を救えたことに感動した。・自分で助かる努力を心掛ける。同時に家族。次に隣人助け合い。

・片田先生の講演を聞き、日頃の取り組みが大事であると思った。協力し合える環境作り、自分でできること。・日常的に防災訓練をしていたが、震災では何をすればよいのかわからなくなってしまった。それほど震災は怖いものだと思います。

・目の前で起きていることでさえ、自らの力で考え取り組み、それを実行するための判断ができない方々（行政、市民を問わず）があまりに多く、大変苦しい思いの中、微力ながら自分たちの立場で出来ることを取り組んできました。一方、長期的な視野を持ち共に手を取り合える、思いを共有できる方々の存在、広がり、強さに勇気づけられました。・行政の限界。

・障害のある人も無事に過ごすことのできるネットワーク。・片田先生の話は勉強になった。

・自然の力を制圧することはできない。自然の脅威は必ずあり、その時に生き延びるためにどう対応するかということについて深く考える機会になった。・予想外といったことがあり得る。

・避難場所の指定は市にもあるが本当に安全か不安。昼間の災害の場合、家族がバラバラなので、連絡方法を確認しておく必要性を痛感。・原発関係等の二次災害が気になる。

・自然の災害を受け入れて、自分の生を考える。・災害は防げない、いかに少なくするか。

・片田先生の「想定にとらわれるな」の話で、犠牲の大半がハザードマップで安全とされた部分で亡くなっている。ここは大丈夫との想定が問題。時間を守っていただきたい（２）。

・よい話をもっとたくさんの人に聞いてほしかった。市内の小中学校は参加していたのでしょうか。

・九十九里平野に津波がきたらまずどうするのか、市や町での話し合いが早急に必要だ。

・一人暮らしの高齢者の安否確認と共に支援の方法について具体的にしてほしい。

・まず事実を知ること。そして何をやるか考えて一つでも実行する。

・自主防衛の大切さ、人を頼らず個々の行動の大切さ。

・高層マンションの揺れがすごかった。求名駅前公民館が避難所として活用されたが市で指定してほしい。・まさか自分が震災にあうとは思っていなかった。他人ごとではないと思った。

・家族や地域でしっかりと事前に確認・打ち合わせをしようと思います。

・いまだにこんなことがあったとは信じられません。原子力については、反対の気持ちをもっていました。安全であることはありえないことが実証されてしまいました。

・停電のために情報が入らず、自分の家族の安否確認、近所の高齢者の無事確認をした。災害の大きさを翌日知りびっくりした。・想定外を意識しておかなければいけない。

・突然起こる大地震、その時自分が何をしたらよいか、するべきなのかを考えさせられた。

・元禄地震に学ぶことができた。300年前の災害の教訓を有効に生かせたらと思った。

・連絡の手段がない場合どうするか家族で話し合っておく。電気を使わないで過ごす工夫をする。とにかく自分の命は自分で守る。・日頃からの積み重ね、先々代の言い伝えを聞くということが大切だと思います。・親戚に住む石巻市の13名が全て助かった。石巻市の作ったDVDや写

真集やビデオを見せてもらったが、あらためて津波の恐ろしさを認識した。

・大きな災害がいつか起きるということを自覚していくことの大切さ ・子どもが障害を持ち、てんかんの薬も飲んでいる。薬のこと避難所の困難さ等、安心できる情報、環境の整備がほしいと思います。 ・学校が近いので特別支援学校に避難するのはよいと思いますが、他のところへ避難するのは悩めます。防災グッズを市から配布してもらって自宅で避難できるようにならないか。

・職場でもいろいろな場合を考えた対策や訓練を重ねておくこと。また素早い判断も大切。地域とのつながりを日頃よりもつことも大切。 ・現在盛んに行われている地域の絆が大切であると再認識した。 ・防災訓練をやったことがあったので大慌てはしなかったが、予想していなかったことが続き、常にアンテナを張り巡らせ対応をしなければならないと思った。

・福岡地区は公民館、幼稚園、保育所等は、平屋で避難場所に適していないと思います。近隣市町村を含めた避難場所マップの作成をお願いしたい。夜間の緊急時の避難が、公共の建物で可能なのか。早い段階での自主避難が可能なのか。主催者に回答をお願いしたい。 ・家族、仲間の絆。もし避難所に長期間行くことになったら、障害を持っている子たちは耐えられないだろう。安心して相談できる場所や身を寄せる場所が欲しい。

質問④「地域と学校との防災教育での交流」「学校が関係機関をつなぎ、情報を発信していく防災ユニバーサルねっと」を提案し、取り組みを進めています。それについて○を付けてお答えください。

とてもよい	よい	よくわからない	未回答
59 (57%)	32 (31%)	6 (6%)	6 (6%)

(とてもよい よい と答えた方は以下の回答も)

とても関心がある	関心がある	あまり関心がない	未回答
33 (31%)	45 (44%)	2 (2%)	23 (23%)

とても関心がある 関心がある と答えていただいた方について、「防災ユニバーサルねっと」を提唱・構築をしていきたいと考えていますが、ネットワークへの参加や協力を検討したいという団体等がありましたら教えてください。

団体名：TOSS CHANCE（群馬県桐生市小学校教諭） 房総炭工房たけさと
北之幸谷ボランティア部会 東金市民生委員（個人） 野花の会 東金市赤十字奉仕団
山武市手をつなぐ親の会 嶺南地区社会福祉協議会 長生・山武自閉症協会
計 8団体 1個人

- ・特別支援学校を核に地域の小学校も加入したい
- ・学校と社協がつながれば自然と広がっていくと思う

第1回地域との合同防災訓練（寄宿舍夜間避難訓練）

- ねらい
- ・つばさ会が主催をすることで自主防災の意識を高める。
 - ・地域交流をする中で、地域の方に寄宿舍について知っていただく。
 - ・防災に関する集会をする中で、防災への関心を高める。

日 時 平成23年9月26日（月） 18:30～19:20

場 所 寄宿舍ホール

参加者 寄宿舍生26名 職員8名 城西国際大学生3名 北之幸谷区ボランティア部会6名

内 容 司会進行：つばさ会（生徒4名）

時 間	内 容
18:30	ホールに朝の集いの隊形で集合
18:35 (5分)	開会式 進行：生徒 ① 始めの言葉 生徒 ② 校長先生の話
18:40 (10分)	消灯訓練 ① 事前指導 ・地震の音を流す ・音と共に電気が消える ・電気が消えた時に感じたことを覚えておく (感想、何が見えたか、全体や個人でどんなことができそうか) ② 消灯 BGMを流し寄宿舍の電気を消す ③ 消灯した状態の行動（教師は観察）1分程度 消灯後しばらくしたら職員がランタンをつける（じゅうたんの前後）。 ④ 電気をつけ、①での事柄について感想を聞く。
18:50 (15分)	大学生による防災ゲーム ① チーム分け（4チームに分かれる。地域のボランティア部会の方もチームに入ってゲームを行う） ② ゲームを行い、得点を競う。 ③ 得点により非常食の景品を配り後日試食をする。
19:05 (10分)	防災ビデオの鑑賞 「忍たま乱太郎の消防隊」 ※防災ゲームの様子により鑑賞しないこともある。
19:15 (5分)	閉会式 ① はじめの言葉 生徒 ② お礼の言葉 生徒 ③ 校長先生の話 ④ 終わりの言葉

第1回地域との合同防災訓練（夜間寄宿舍避難訓練）

外部参観者アンケート集計結果

○参加者・協力者

寄宿舍生徒 24名

北之幸谷ボランティア部会 6名

城西国際大学大学生 3名

○外部参観者

北之幸谷区長 嶺南地区社会福祉協議会長 銚子特支2 千葉盲3 山武市睦岡小1 計8名

○アンケート結果 回収4名

①参観していかがでしたか？

とてもよかった0名 よかった4名 もの足りなかった0名

②ご自身の所属等でできそうなことで考えたことがあれば

- ・地域の方が参加し一緒に学ぶことができる機会があり驚きました。周りの方とのつながりを感じました。「特別支援学校」が周囲の方と協力し、子どもを育てている感じが参考になりました。
- ・防災ゲームによる知識の定着
- ・災害時を想定して舎生一人一人が考える機会になっていてとてもよかったと思います。
- ・かんぱんを食べる（非常食）という発想はなかったので試してみたいと思いました。

③ 11の大震災で感じたことや思うことについてあれば

- ・地域住民との連携及び市役所との日頃からの連絡
- ・多くの舎生が宿泊しているので、もしもの時に避難していく方法を考えていく必要があると思いました。本校でも実際に近い形で訓練できるようにしていきたい。
- ・日頃の避難訓練が有効なところとそうでないところがあったので、いかに実際の災害に近づけるかが課題であると感じています。

④ユニバーサルネットについて

とてもよい1名 よい2名 よくわからない0名

とても関心がある0名 関心がある3名 あまり関心がない0名

第2回地域との合同防災訓練（第5回全校集会）

平成23年9月20日
児童・生徒会係

1 ねらい：東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々をお招きし、交流を図る。
防災について考える機会とする。

2 日 時：平成23年10月 4日（火）9：50～10：40

3 場 所：体育館

4 参加者：全校児童生徒 北之幸谷区長寿会16名・ボランティア部会3名

5 展 開 司会、号令：児童生徒会役員

時間	活動内容	全校への協力依頼	備考
9：40	○校内放送で集会の始まりのアナウンスをする。（児童生徒会役員）	・児童・生徒会役員は9：10までに体育館に集合し、準備を行う。	
9：50	○体育館に姉妹学級で集合する。 ・各姉妹学級をグループ名で呼び、出欠確認をする。（児童生徒会役員）	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々に体育館で待機いただき、一緒に参加していただきます。 ・名札（ガムテープ）を胸に付け、姉妹学級は妹学級を迎えに行き、一緒に体育館に集合してください。 ・役員が各姉妹学級のプラカードを持って立っていますので、それを目印に集合してください。 ・グループ名を呼びますので、大きな声で返事をお願いします。	パイプイス（21脚） プラカード 名札（ガムテープ）
9：55	○はじめの言葉（児童生徒会役員）	・復唱などをして始まりがわかりやすいようにしてください。	
9：57	○校長先生の話	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々の紹介も含んでお願いします。	
10：00	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々を各姉妹学級の代表者が迎えに行く。	・各姉妹学級の座る場所に写真カードを置いておきますので、その写真と同じ色の花やリボンをつけている方を、迎えに行き定位置に戻り、一緒に座ってください。	写真カード 花、リボン パイプイス
10：05	○姉妹学級ゲーム ・ゲーム説明（児童生徒会役員）		
10：10	・姉妹学級に分かれ、各グループ毎に指令されている特別教室へ行く。 ・校内放送で緊急放送（地震）が流れた	・勝敗を競うゲームではなく、交流を図るためのゲームです。移動の際、ペアを作ったり、外部の方と話しをしたり	指令カード 非常時持ち出しグッズ

	ら、安全な場所に避難する。 ・避難解除放送が流れたら、特別教室より、非常時持ち出しグッズを取って体育館に戻る。	して親睦を深めるようにしてください。（児童生徒会役員も姉妹学級に入ります。）	
10:15	○校内放送で緊急放送（地震）が流れる ・近くの教室の机の下などに避難する。	・安全な場所で待機ください。	
	○避難解除放送が流れる。 ・再度、活動（ゲーム）に戻る。 ・体育館に戻り、ステージ下の指示された箇所に持ってきた非常時持ち出しグッズを置く。	・指令場所にて非常時持ち出しグッズを取り次第、体育館に安全に気をつけ戻ってきてください。 ・グループによって体育館に戻ってくる時間に差が出ると思いますが、定位置にて姉妹学級で待機しててください。 ・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々には、体育館に戻り次第、集会の初めと同様のステージ下にあるイスに座っていただきます。	
10:23	○非常食を食べる。 ・食べている間、児童生徒会役員の質問に答える。	・水分の必要な児童・生徒は用意をお願いします。 ・緊急放送が流れた際、<u>どこにいたのか、どのように避難をしたかなど</u>、質問しますので、挙手をお願いします。（全グループから話しを聞きたいと思いますので、よろしくお願いします。）	非常食 (水分)
10:33	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方から感想を聞く。	・東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の各代表の方から感想をお聞きします。	
10:35	○東金市北之幸谷地区の長寿会、ボランティア部会の方々の退場。	・校長先生の先導で退場していただきます。拍手をお願いします。	
10:37	○次回予告（児童生徒会役員） ・次回は、10月13日（火）に「やまもも集会」を行うことを知る。	・次回の集会の日時やテーマを復唱などをして知らせてください。	
10:39	○終わりの言葉（児童生徒会役員）	・姉妹学級で解散となります。姉妹学級は姉妹学級を教室まで送ってください。	

5 その他

- ・事前の準備や後片付けは、9月26日（月）～10月4日（火）の昼休み（12:40～13:10）に小会議室や体育館にて行う。

第3回地域との合同防災訓練（消防団による消火や放水体験）

H23. 12. 19

安全指導係

1. 目的

- ・地域の消防団を招き、消防活動の話を聞いたり、放水訓練の実演を見学したりして、消防団の活動を知る。
- ・地域の子ども会、ボランティア部会の方々と交流を図り、消防車からの放水や消火器の使い方を一緒に体験する。
- ・地震が起こった時、指示に従って安全に避難することができるようにする。

2. 日時

平成24年1月28日（土） 13:20～14:20

3. 場所

グラウンド、体育館（雨天時 体育館） *気温が低く寒い天候の場合は体育館を考える。

4. 内容

○避難訓練 地震想定 避難場所ー体育館

○子ども会、ボランティア部会の方々は、各部に入って一緒に活動する。

（所属については、当日の参加状況に応じて）

○消防車からの放水、消火器使用の体験

（雨天時はホースの延ばし方と消火器使用の体験）

- ・小学部と中、高の一部の生徒（重複学級及び外での見学が難しい生徒）は体育館、中・高の生徒はグラウンドで見学や体験を行う。ただし、小学部の児童については見学のみとする。
- ・放水体験はグループごとに代表者2名（本校の生徒1名、子ども会1名）が筒先を持ち、残りの生徒でホースに触って水圧や流れを感じて放水をする。
- ・消火器の体験は、各グループ3名程度代表者（本校の生徒2名、子ども会1名）が体験する。

【体験グループ】

グループ1 高等部3年生と子ども会5名

グループ2 高等部2年生と子ども会5名

グループ3 高等部1年生と子ども会5名

グループ4 中学部と子ども会5名

【体験の順番】

①放水体験ーグループ1 消火器体験ーグループ2 3, 4グループは見学

②放水体験ーグループ2 消火器体験ーグループ3 4, 1グループは見学

③放水体験ーグループ3 消火器体験ーグループ4 1, 2グループは見学

④放水体験ーグループ4 消火器体験ーグループ1 2, 3グループは見学

5. 参加者

小学部 38名 中学部 36名 高等部 79名 職員 122名 保護者 140名

子供会・ボランティア部会 20名 消防団 20名

介護体験生・教育実習生 19名

合計 474名

6. 日程

	地域	消防団	保護者	児童・生徒	職員
12:45	集合 対応：瀧川 地域支援	準備 対応：教頭 安全係			駐車場係 車の誘導
13:00			来校 体育館へ	下校準備	下校準備
13:20 ～30秒	避難訓練開始 ・遠山教頭は校内放送をする。 緊急放送、緊急放送。ただいま訓練地震が発生しました。机の下に避難してください。先生の指示に従って、体育館に避難してください。 ↓ 地震が収まりました。先生の指示に従って、体育館に避難してください。 ↓ ・担任は安全に留意し、児童生徒の避難誘導をする。避難場所に移動したら、ステージに向かって左から小・中・高の順に並ぶ。担任は児童生徒の人数を確認して主事に報告する。報告は「〇年〇組、在籍〇名、欠席〇名、現在数〇名、異常なし」とする。 ↓ ・各部の主事は、学部の全クラスの報告を受けた後、副本部長（八代教頭）に人数確認と避難の状況を報告する。 ↓ ・避難完了 ↓ ・そのままの体制で合同防災訓練に入る。				
13:30	見学・体験 紹介後 各学部へ参加 対応：瀧川	実演	見学	見学・体験 ＊進行 児童生徒会及び 安全係	見学・体験
14:20	集合 対応：瀧川	片付け等	引き渡し訓練の 説明を聞く	教室へ移動	教室へ移動 駐車場係 ＊駐車場から 出る車の誘導
14:30 ↓ 15:00	解散 対応：瀧川	解散 対応：校長 安全係	引き渡し訓練 教室へ	引き渡し訓練 保護者と下校	引き渡し訓練 担任確認
15:30	職員集合（職員室）				

7. 地域との合同防災訓練の流れ

<進行> 児童生徒会及び安全指導係

(1) 始めの言葉	}	10分
(2) 校長先生の話		
(3) 消防団、子供会、ボランティア部会の紹介		
(4) 消防団の実演及び放水、水消火器使用の体験	}	30分
(5) 感想（本校の児童生徒、子供会、保護者、消防団から）		10分
(6) お礼の言葉（生徒会長）		
(7) おわりの言葉		

<内容>

- ・小学部と中、高の一部の生徒（重複学級及び外での見学が難しい生徒）は体育館、中・高の生徒はグラウンドで見学や体験を行う。ただし、小学部の児童については見学のみとする。
 - ・放水体験はグループごとに代表者2名（本校の生徒1名、子ども会1名）が筒先を持ち、残りの生徒でホースに触って水圧や流れを感じて放水をする。
 - ・消火器の体験は、各グループ3名程度代表者（本校の生徒2名、子ども会1名）が体験する。
- ＊各学年、学部で筒先を持つ生徒、消火器を体験する生徒をあらかじめ決めておいてください。

【グループ分け】

グループ1	高等部3年生と子ども会4名
グループ2	高等部2年生と子ども会4名
グループ3	高等部1年生と子ども会4名
グループ4	中学部と子ども会4名
グループ5	小学部、中・高の一部の生徒と子ども会4名

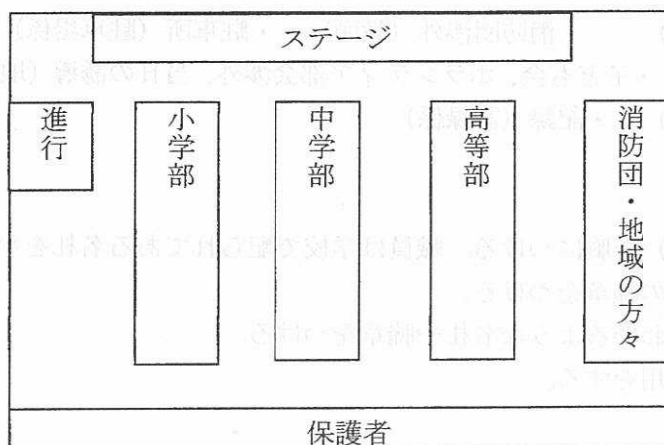
【体験の順番】

①放水体験－グループ1	消火器体験－グループ2	3, 4グループは見学
②放水体験－グループ2	消火器体験－グループ3	4, 1グループは見学
③放水体験－グループ3	消火器体験－グループ4	1, 2グループは見学
④放水体験－グループ4	消火器体験－グループ1	2, 3グループは見学

＊体育館での体験は中・高の生徒と子ども会で順番に体験してください。

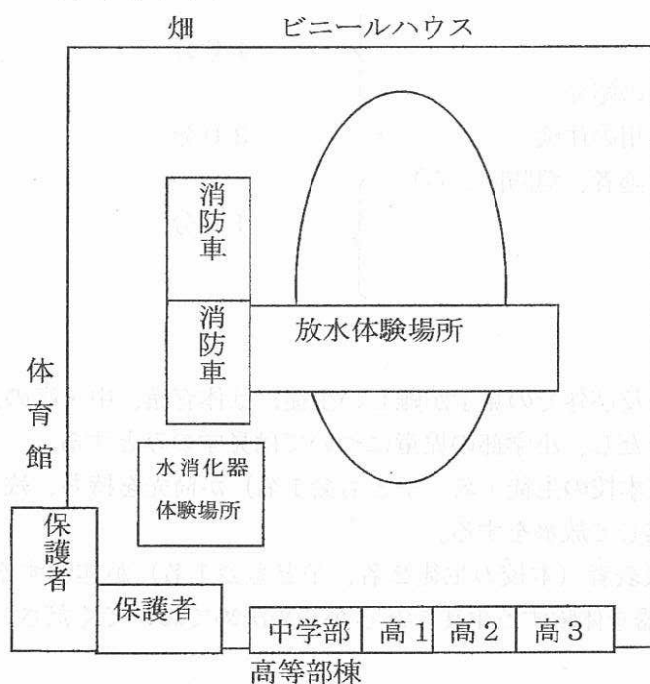
8. 会場図

○避難場所での集合隊形及び合同訓練開始・終了時の隊形

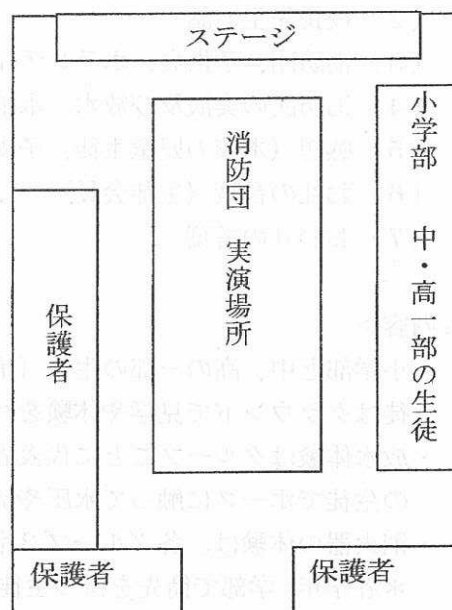


○見学・体験時の隊形

<グラウンド>

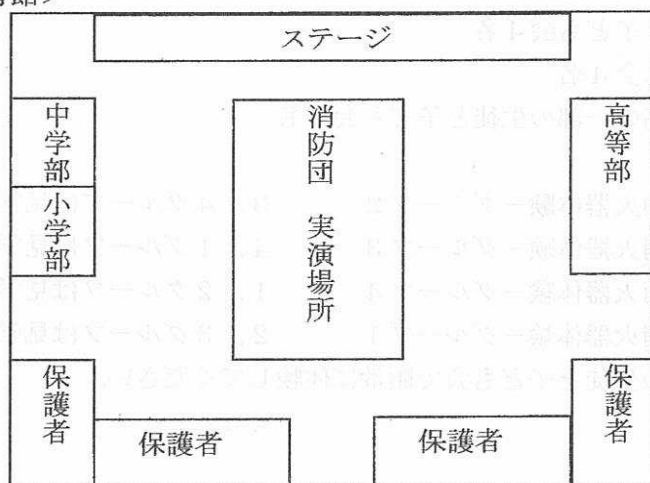


<体育館>



○雨天時

<体育館>



9. 役割分担

- ・実施計画（安全指導係、地域支援）
- ・消防団渉外（教頭）
- ・駐車所（駐車場係）
- ・進行（児童生徒会、安全指導係）
- ・子ども会、ボランティア部会渉外、当日の誘導（地域支援）
- ・体育館の放送機器の準備（情報係）
- ・記録（記録係）

10. その他

- ・児童生徒は名札（黄色いガムテープ）を胸につける。職員は学校で配られてある名札をかける。
- ・地域の方々はオレンジ色の名前付きの腕章をつける。
- ・管理職や防災担当等の職員は、役がわかるような名札や腕章をつける。
- ・寒さも予想されるので、防寒着の着用をする。

日 時 平成23年10月5日 13:10～13:50

場 所 作業室 (C棟1階)

授業者 高等部 海老根 香 (T1)

美術担当 (T2～T6)

1 題材名 防災パーテーションを作ろう ～災害時に適したデザインを考える～

2 題材について

防災教育チャレンジプランの取り組みとして、パーテーションを作ることになり、美術の授業でそのデザインを決め、制作をすることにした。選択教科は、高等部全員を縦割りで4教科に分けて編成している。美術の生徒は、アイディアを出して、絵や言葉で表現できる生徒、教師の支援を受けアイディアを出し色を塗ることができる生徒、教師と一緒に好きなデザインを選んで、色を塗ることができる生徒など、実態は様々である。

パーテーション作りでは、災害時の避難生活を想像し、災害時に適したデザインを考えていく。また、イメージプロフィールから分かった理想のパーテーションのデザインや色合いを基に、いくつかのデザインの中から理想に近いデザインを選び着採していくことにする。

パーテーションを作ること、地震の体験や震災後のニュースなどを思い出し、いつ自分たちの身近におこるか分からない災害に備えたり、防災の意識を高めたりするきっかけにしたい。また、色や形が人に与えるイメージがあり、それを基にデザインを考えることで人の心に変化を与えることができることを知ってほしい。

3 題材の目標

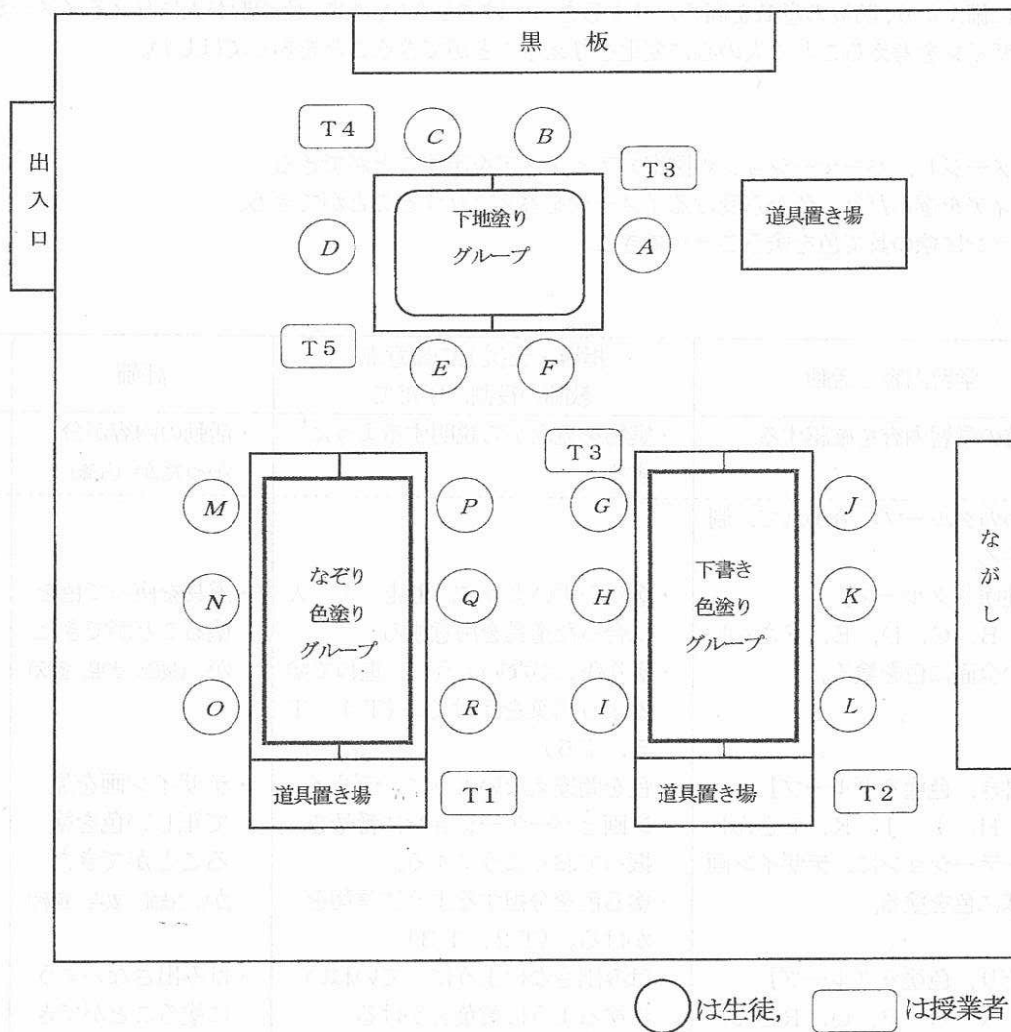
- ・災害時をイメージし、パーテーションの図案のアイディアを出すことができる。
- ・良いアイディアを選んだり、色から受けるイメージを答えたりすることができる。
- ・パーテーションに絵の具で色を塗ることができる。

4 展開

時配 (分)	学習内容と活動	指導・支援上の留意点 教師の役割、手だて	評価	備考 教材・教具
3	・ 本時の学習内容を確認する。	・ 実物を見ながら説明するようにする。	・ 活動の内容が分かったか (知識)	
30	・ 3つのグループに分かれて、制作する。 【下地塗りグループ】 (A, B, C, D, E, Fさん) ・ 板の全面に色を塗る。 【下書き、色塗りグループ】 (G, H, I, J, K, Lさん) ・ パーテーションに、デザイン画を基に色を塗る。 【なぞり、色塗りグループ】 (M, N, O, P, Q, Rさん) ・ パーテーションに、指定された色を塗る。	・ 塗りやすいように、生徒一人一人に合った道具を用意する。 ・ 塗り残しがないように、重ねて塗るよう言葉をかける。(T4, T5, T6) ・ 色を間違えないように、デザイン画とパーテーションに番号を振っておくようにする。 ・ 塗る色を分担するように言葉をかける。(T2, T3) ・ はみ出さないように、ていねいに塗るように言葉をかける。 ・ はみ出してもいいようにマスキングしておく。	・ 道具を使って色を塗ることができたか。(技能、表現、意欲) ・ デザイン画を見て正しい色を塗ることができたか。(技能、表現、意欲) ・ はみ出さないように塗ることができたか。 ・ 塗り残しなく、仕上がりきれいに	板 (パーテーション) 絵の具 ローラー エッジヤー シート プラダン板 (パーテーション) マジック 下書きシート アクリル絵の具 筆 刷毛 マスキングテープ

		色の名前と番号を振っておき、自分で塗る色を確認できるようにする。(T 1)	- なるように塗ることができたか。 - 正しい色を選ぶことができたか。(技能, 表現, 意欲)	
5	片付けをする。	分担して片付けをするよう言葉をかける。	協力して片付けができたか(関心意欲)	
2	- 本時の成果をグループごとに発表する。 - 次時の学習内容について知る。	発表する生徒を決めておくよう言葉をかける。	発表ができたか(知識, 意欲)	

5 配置図



1 題材名 災害時の「ほうれんそう」～緊急時のコミュニケーション～

2 題材について

3. 11の東日本大震災の時、部活動参加生徒たちは、部活動中、下校途中、寄宿舎の活動中と様々な状態であった。学校付近にいた生徒たちは一旦体育館に避難したが、大きな余震があり、グラウンドへ避難。震えながら涙を流す生徒もいた。数日後、余震の影響で電車が止まり、駅で足止めになった生徒たちを、スクールバスで迎えに行くということもあった。本校の部活動参加生徒は、1学年4名、2学年14名、3学年13名の計31名で、全て自主通学である。

震災時を思い出しながらブレーストーミングをしたり、具体的な場面設定でロールプレイングをしたりすることで、緊急時に自分で自分の身を守るための方法や、必要となるコミュニケーションについて学んでほしい。事前学習として釜石東中学校の生徒による体験発表のビデオを鑑賞しておく。

3 題材の目標

- ・自分の身を守るために必要なことを考えることができる。
- ・自分の言葉や表現で、意見を発表することができる。
- ・他者の気持ちを知ることができる。

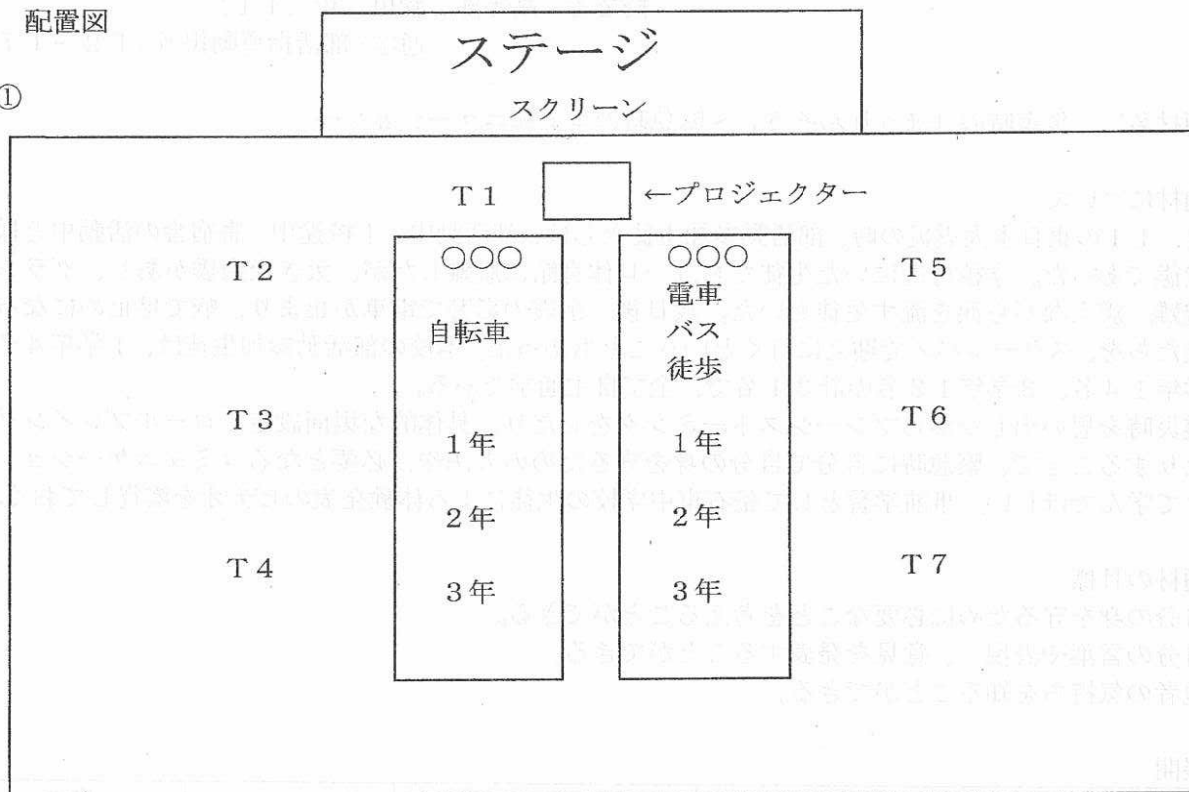
4 展開

時配	学習内容と活動	指導・支援上の留意点 教師の役割、手立て	評価	備考 教材・教具
5	配置図① ・本時の学習内容について知る。	・映像等を用いて分かりやすく伝える。	・学習する内容がわかったか(知識)	プロジェクター スクリーン マイク PC
15	配置図② ・5名ずつ6グループに分かれる。 ・自由な発言やアイデアを発表する。 設定「朝の通学中」「家で就寝中」 「家で入浴中」に地震が起きたら I 自分でどうする? 次に… II 誰に、どうやって助けを求める? ・代表者が発表する	・話がしやすいように、同じ通学方法の生徒で集まるようにする。 ・発表内容を紙に大きく書くようにする。 ・発表係、紙を持つ係を決めるようにする。	・自分で考え意見が言えたか(知識) ・他者の意見を聞いたか、進んで取り組めたか(関心意欲)	紙 マジック
15	・役割演技をする。 設定I 地震が起きて逃げる 「耳の遠い老人」「孫」 設定II 下校途中に見つけた 「倒れている人」 「通りすがりの人」 ・代表者二名が発表する。	・役割の希望を聞く。 ・名札をつけて行う。 ・それぞれについて感想を聞く(グループ毎)。 ・代表者を決めておく。	・役割がわかったか(知識) ・進んで取り組めたか(関心意欲)	役割がわかる名札
5	配置図① ・感想を聞く。 ・教師のまとめを聞く。	・特に意欲的に取り組んだ生徒や、普段発表する機会が少ない生徒を選ぶ。	・感想が言えたか(知識、意欲)	

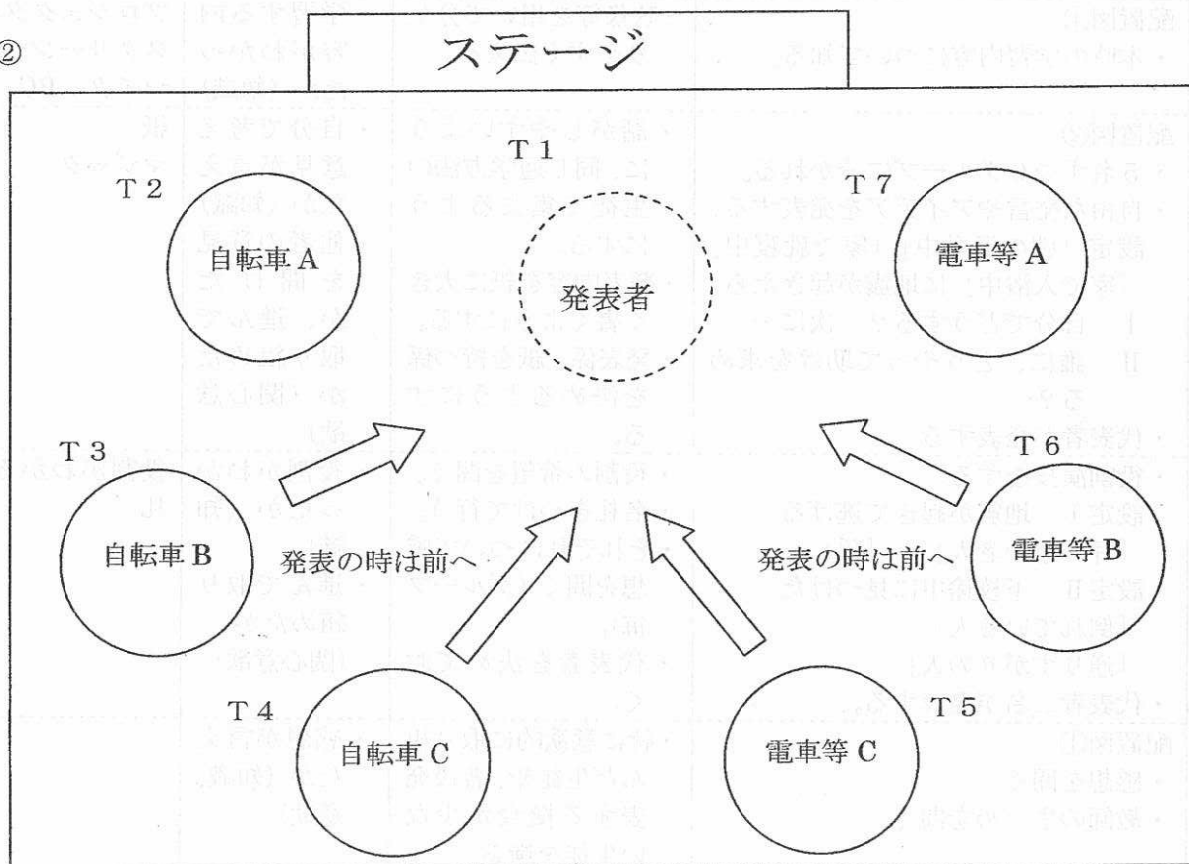
※今まで教わっていないことに遭遇した時（竜巻やゲリラ雷雨）、既成概念にとらわれないで行動しなければならない時（横断歩道青なら渡ってOKか）、事例を交えて、まとめの場面で話をする。

5 配置図

①



②



防災教育公開事業（美術 自主通学生徒集会） アンケート等集計結果

○外部参観者

防災教育チャレンジプランアドバイザー 1名 県教育委員会 1名

東上総教育事務所 2名 東金市教育委員会 1名 浦安市教育委員会 1名

姉崎高校 2名 岬高校 1名 九十九里高校 1名

旭二中 1名 印西原山中 1名 光中 1名

陸岡小 1名 大網小 1名 東金東小 1名

特別支援学校（仁戸名 1名 船橋 1名 つくし 1名 君津 1名 夷隅 2名 市原 1名 千葉 1名
八日市場 1名） 計 25名

○アンケート結果 回収 19名

①参観していかがでしたか？

とてもよかった 11名 よかった 7名 もの足りなかった 0名

②ご自身の所属等でできそうなことで考えたことがあれば

- ・地域と連携した防災は、よほど連絡を密にして会議等を繰り返していかないと難しいように思いました。どのように進めていったのか知りたいです。パーテーションは日常でも使えるのでよいと思いました。出来上がりをきちんとしたものになければと思います。素晴らしいパーテーションにしてください。パーテーションと共に自主通学生徒への指導は参考になります。ありがとうございました。
- ・マニュアル作成のし直し。意識改革。自助共助の大切さ。
- ・様々な状況の中で災害が起こった時に、どんな行動をとればよいか、グループで考え意見を出し合う授業の展開はどの学校でも実施可能で防災に関する意識を高めることができると思う。
- ・「災害ボランティアで果たせることは災害後にはほとんどない」とNPOの方が話されていたことがあった。パーテーションの授業では、災害前から取り組める活動だと思われました。自主通学の「ほうれんそう」では、「自分の意見を言う」事を通じ自助が確実に身についていたように思う。事前に想定されるあらゆる方法を考えたい。
- ・子ども自身が今回の震災を受け感じ取ったことをもとに、できることを実践している姿を見て、私たち大人自身ができそうなことやれることを明確にしていく必要があると感じました。先生方の御指導すばらしいと感じました。
- ・災害を想定したロールプレイングは避難訓練の時にすることができる内容であると感じた。
- ・生徒にとって課題が身近であるほど主体性や内発的な活動ができると感じた。DVDから本校だけでなく、近隣の学校との連携の重要性。
- ・通学途中、下校後などの学校外で災害にあった場合を考えた全体での集会は有効であると感じた。
- ・学校が避難所になることを考えると、パーテーションを作っておくこともとてもよいと思いました。自分の考えを発表する、自分のすべきことを行動に移すことが自信を持って行うことができるよう

に支援していくことの大切さを改めて実感しました。早速行います。

- ・具体的な避難方法を知る。被災時の行動の仕方を教える。生徒に繰り返し伝えていくことが大切だと感じました。
- ・災害時に自分の命を守るために大事なことを具体的かつ日常的に考える場面をつくることが必要だと思いました。生徒が真剣に考え活動する姿が素晴らしい。
- ・どのような学習があるか、参加できてよかった。できれば小中の様子も見たかった。防災教育で美術ができるとは思っていませんでした。視点を変えて何ができるのかを考えたい。自力通学の生徒については深く考えていなかったのを検討していきたい。
- ・生徒同士のロールプレイングの中で協力し合って助ける「共助」の場面がみられてよかった。自分で携帯電話をかけて救急車を呼ぶことも大変参考になりました。
- ・電話が通じない、公共バス乗車中、スクールバス乗車中（校外学習中、宿泊学習中）についても考えてみても。日頃から子どもたちがどう考えているか家庭でどう決めているか。
- ・自主通学生徒集会は本校でも実施できそうです。実際3.11では下校時に起こったことなので、また大きな地震があったらどうするかしっかり考えておく必要があります。今日の授業は自分で考えることに主眼を置き、正解であることを求めなかったため意見がたくさん出て素晴らしかったです。
- ・特別支援学校の生徒、地域の高齢者等への対応を中心に大変勉強になった。
- ・自主通学生を対象とした防災教育は大変参考になりました。是非参考にできればと思います。
- ・それぞれの子どもたちが自分のできることを頑張っていたことが素晴らしい。生徒の特性を考えるとコミュニケーションの大切さを痛感いたしました。大変参考になりました。
- ・本校も避難場所の指定を受けました。地域との連携は大変参考になりました。

③ 3.11の大震災で感じたことや思うことについてあれば

- ・体育館で生徒たちの避難行動があり、ドアを開ける生徒がいましたが、本校では教員が開けることになっています。
- ・想定外だから…想定を考えないことが大切。自分の命を守ることの主体性をもつこと。
- ・自助・共助の観点からグループで防災について考えるのは効果的だと思う。協力して何かを作ったり、具体的な場面を設定してロールプレイングをしたり、単なる避難訓練以外にいろんなことができそうだと改めて考えました。
- ・防災教育及び生活基盤に根差した教育が必要である。
- ・想定外はいけないと報道も多いが、大切なのはその場でどう判断しどう行動するかが大切だと感じました。防災では被害を最小にすることが大事だと考えます。災害はいつ来るかわかりません。今できること、未然にリスクを減らせることは何かを見極めたいと考えています。
- ・保護者と迅速に連絡をどのように取るか、連絡方法のシステムを確立することが必要だと感じた。避難訓練の大切さ、またより一層の充実が必要であると感じた。
- ・携帯電話も不通になり自力通学生の安全が本校でも課題になった。自力通学生への指導、状況により判断できる力をつけていくことが必要であると感じた。
- ・想定外の災害を自身で感じ、災害に対する危機意識を常に想定外で意識するようにしたい。

- ・家庭内での危険回避訓練も意識していただくよう働きかけておき、その確認もしておく方がよいと感じています。
- ・いつも同じ形態での避難訓練なので問題なくできているが、突然の大震災であたふたして色々なことが後手になってしまいました。日頃からこういう時にはこうするというような方法を考えておけるとよいと思いました。
- ・あらゆる災害に対応する危機管理マニュアルの作成と職員の共通理解。避難訓練の実施と見直し。子どもの命を守る手だて。通信不能への対応。自主通学生徒の引き渡し。避難場所としての対応。
- ・大震災の時に今までの防災訓練が役に立つのかと思った。
- ・片田先生の講演ビデオを見てとても考えさせられました。テレビで大震災関係の番組をたくさん見ましたが学校現場に即した内容のものはあまりなかったので、今回見せていただいたものが一番感銘を受けました。私の学校でも先日、津波想定避難訓練を行い、校舎2階に避難しましたが不十分ですね。
- ・屋外へ避難した時の防寒、暴風、降雨などの備え。
- ・机上の計画ではなく実効性がある計画の必要性。少々の無理があっても様々な状況下での避難防災訓練の必要性。
- ・日頃の防災教育の重要性。
- ・今まで千葉県は防災教育に対して力を入れてきたとは言えないと思われる。旭市などでは死者も出ている。学校は生徒の安全を確保しなくてはならない。そのための準備をする必要がある。近いうちに来るであろう東海沖、首都直下、東方沖地震等に対しての備えをする必要があると思います。
- ・片田先生の「率先避難者たれ」という指導はなるほどと思いました。

④ユニバーサルネットについて

とてもよい12名	よい4名	よくわからない3名
とても関心がある7名	関心がある9名	あまり関心がない0名

H23年度 中学部 生活単元学習（2年） 単元計画表

単元名 「災害に備えよう～自分の身を守るためにできることは～」

単元について

この単元は、地震や津波など、災害が起きたときに、自分で自分の身を守るためにできることは何か、非常用持ち出し袋（防災リュック）や非常食、AED などを使って調べたり体験したりしようというものである。

東日本大震災の際、地震や停電を経験した生徒達にとっても、「災害の備え」や「防災」は、以前より関心は高くなっている。災害に備えて、自分の身を少しでも自分で守るためにできることは何か、みんなで考えていきたい。

まずは「非常用持ち出し袋」の中身を実際に見ながら、何が入っているのか、自分の家にある物はどれかなど、生徒達の経験を聞きながら実際に使ってみて、防災グッズへの理解を深めていきたい。持ち出し袋には非常用の食品は入っていないことが多いので、近隣のスーパーに行き、非常用の食品とはどんな物か、みんなで確認しながら購入し、実際に試食や調理を体験してみる。また、災害時や避難途中などにけがをした時、何をしたらよいか考えたり、救急箱の中身を確認したりしたい。養護教諭から話を聞く機会を設け、簡単な傷の手当ての仕方などを教えていただければと考えている。AED についても大まかに知り、学校内の AED の置き場所を確認したい。また、消防署から訓練用の機器を借り、実際に使い方の体験をしてみようと考えている。また、ミニ非常用持ち出し袋や中に入れる呼び子笛を作成し、毎日の登下校時に持ち運びすることで、防災について、少しでも日頃から意識できるようになるのではないかと考える。

自分たちの周りにある「防災」や「救急」に関することを知ることで、防災や救急への関心が広がり、緊急時に、少しでも自分の身を守ろうとする意識が芽生えてほしいと願っている。

単元の目標 ・身近な「防災」や「救急」に関することを知り、災害への備えに関心をもつことができる。

計画を立てるにあたって

意欲的に取り組める状況作り

- ・興味をもって取り組めるように、非常用持ち出し袋や非常食、AED など、日頃あまり使ったことのないような実際の防災グッズや救急グッズを使って学習する。
- ・地域とのつながりを意識できるように、消防署やスーパーなど、身近な施設に校外学習に行くようにする。

個々に応じた題材や教材、教具の工夫

- ・非常食の購入では、好みの物や気になった物を自分で選んで購入できるように、いろいろな種類の非常食を見て回るようにする。
- ・ミニ非常用持ち出し袋や呼び子笛の作成では、一人一人の力を発揮できるように、個々に応じて取り組めるよう、作り方の工夫をする。

指導計画（総時数 14 時間）

10/3（月）○導入～防災って何だろう？

- ・防災に関するビデオや新聞を見る。
- ・4 日の全校集会(地域合同防災訓練)について知る。

4（火）○非常用持ち出し袋の中身を知る。

5（水）○緊急時の避難や連絡の仕方について

- ・非常階段、車いす、自転車等の使用。
- ・緊急時の連絡の仕方（電話、放送等）

6（木）○緊急時の非常食について知る。

- ・試食 ・緊急時の簡単な調理①

7（金）●校外学習① スーパーで非常食購入

11（火）↓ ・緊急時の簡単な調理②

10/12（水）○救急箱の中身、簡単な傷の手当て。

- ・養護教諭から話を聞く。

13（木）○ミニ持ち出し袋、呼び子笛を作る。

14（金）

17（月）

18（火）●校外学習②(持ち出し袋の中身購入)

19（水）○AEDについて知る。

- 校外学習③（消防署） ・見学

- ・訓練用機器、マゼンを借りに行く。

20（木）・使い方の体験。 ○学部集会準備
(3 組と一緒に)

24（月）○学習のまとめ

北之幸谷区の皆さま

千葉県立東金特別支援学校
校長 千葉 晃

「2011年度 防災教育チャレンジプラン」の取り組みについて

秋晴れの候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろから本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。本校は今年度、北之幸谷区の皆さまのご協力をいただき、内閣府の「2011年度 防災教育チャレンジプラン」の実践団体として認定され、自助共助の観点から、地域と一体となって防災力を高めるための取り組みを行ってきました。その中で、

- ・被災地支援の一環として、生徒会で未使用のタオルを集めて東金市社会福祉協議会に届けました。
- ・東金文化会館をお借りしての防災シンポジウムでは、群馬大学の片田先生や東金高校元校長の古山先生をお招きして講演をしたり、PTAと生徒会で協力をして、被災地に向けての支援活動として義援金集めたりしました。
- ・生徒会で過去に起きた地震等の災害について学び、308年前に起こった元禄地震の津波で亡くなった方のために建てられた供養碑などの情報を入れた北之幸谷地区の防災安全マップを作りました。
- ・北之幸谷区のボランティア部会と生徒会で炊き出しの交流でカレーライスを作りました。
- ・城西国際大学の学生と北之幸谷区ボランティア部会と寄宿舎生とで、夜間合同防災訓練をしました。
- ・全校集会に北之幸谷区長寿会の方々をお招きして、防災をテーマとした交流をしました。

他にも、本校が避難所になった時に利用できる防災マルチパーテーションを作成したり、作業学習で防災関連製品を開発したりと、様々な取り組みを行っております。



先日、防災教育チャレンジプランの中間報告会と防災教育交流フォーラムが立教大学で行われ、平野防災担当大臣も出席されました。その中で、「3. 11 その時防災教育は活きたのか～東日本大震災の防災教育実践団体の行動と対応～」というテーマで、釜石東中学校の取り組みの発表がありました。中学生が率先して避難行動をとり、地域の老人や小学生の手を引き津波から逃れたという事例で、テレビや新聞でも「釜石の奇跡」として紹介されています。しかし、生徒たちにそういう意識は全くなく、今まで学んだことを実践しただけ、奇跡ではなく、「当たり前のことをしてだけ」と話していました。また、現在は、間借りした校舎でスクールバスを13台使い、1学級50～60人で授業を行っているとのことでした。

宮城県南三陸町立歌津中学校では、「震災」を「津災（しんさい）」であると説明をされていました。地震による被害はほとんどなく、津波による被害で全校生徒の5割以上の家屋が全損という状態だそうです。地域には、「結い」に親しみをこめて、「結いっこ」という言葉があるそうで、助け合い、力を合わせていきたいと話していました。

気仙沼市では、つい先日、やっと市の復興計画を作成することができ、大臣に提出をしたということですが、避難者もいる中での中学校の卒業式では、生徒の代表が復興に向けて頑張りたいと話していたのを聞いて、大人が頑張らなければいけないと強く思ったそうです。東北の子どもたちは、町の未来マップを作ったり、またここに住むためにどういう町づくりをしたらよいかということを考えていたりするそうです。

別の団体の発表では、もう必要ない物資を押し付けて、「受け取ってもらわないと困る、受けとってほしいところの写真を撮らせてくれ。」と言われ、悲しくつらい思いをしたことなどを涙ながらに発表されている団体もありました…。

「今からでもできることは？」「今だから必要な物はないですか？」と釜石東中学校の副校長先生にお聞きしました。これから校舎の引っ越しをするが、理科の実験器具や家庭科で使う調理器具がないとのこと。釜石市はもうお金がなく、学習道具をそろえる目途が立っていないとのこと。もし可能であれば…物ではなく、復興支援も兼ね地元の業者から購入したい…実は、お金が一番ありがたい…と話していました。また、教職員はご自身も被災されている方が多く、疲労やストレスは大変なものであるとの話も聞きました。

本校は「防災ユニバーサルねっと」と称し、北之幸谷を発信地として地域と連携した防災教育の取り組みを、学区である二市四町に紹介したり、県や市の関係機関や福祉関係団体の組織をつないだり、個人が参加をして防災教育（「命を守る」力を育てること）について情報交換をしたりすることができるネットワーク作りをしたいと考えています。

今回、取り組みの中間点を迎えるにあたって、本校として、できることについて改めて考えてみました。ご賛同、ご協力いただけるようでしたらご協力をお願い致します。

① 「防災ユニバーサルねっと」を見える形にするための様々なアイデアの募集

○メールにての募集（12月中） E-mail togane-sh@chiba-c.ed.jp

○やまもも祭でのアンケート形式の募集（11月19日）

② 防災教育チャレンジプランに取り組んでいる仲間への支援

○釜石東中学校生徒の学習活動のための義援金

○釜石東中学校職員のための支援（ご家庭で余っているビール券やクオカード、図書券等の金券）

集める期間 : 11月7日（月）～19日（土） 19日は本校のやまもも祭です（文化祭）

場 所 : 本校事務室

問合せ先 : 東金市北之幸谷502番地 TEL 0475-52-2542

防災教育チャレンジプラン・地域支援担当 瀧川 猛（たきかわ たけし）

※ できるだけまとめていただき届けていただけると助かりますが、交通が不便な方等は、ご連絡いただければ、受け取りにお伺いします。

● 防災教育チャレンジプランホームページ <http://www.bosai-study.net/top.html>

● 東金特別支援学校ホームページ <http://www.chiba-c.ed.jp/togane-sh/>

北之幸谷区の皆さま

千葉県立東金特別支援学校
校長 千葉 晃

防災教育チャレンジプランの報告とアンケートのご協力について

梅花の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろから本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。本年度は、40周年に向けて、地域との連携を深める防災教育に取り組んでいましたが、この度、毎日新聞等が主催する「ぼうさい甲子園」に応募し、おかげ様で『だいじょうぶ賞』を受賞することができました。今年度の取り組みについて冊子にて報告させていただきますのでご覧ください。また、次年度に向けての参考にするために、アンケートを行いたいと思いますので、ご多用とは存じますがご協力くださいますようお願いいたします。

① 地域との連携として行ってほしい合同防災訓練の内容

例：炊き出し 避難所の開設 夜間の合同防災訓練 等

② 地域や保護者向けに行ってほしい防災教育や学校安全の講演や研修

例：家庭での備え 災害後の心のケア ボランティア 等

③ 東日本大震災後に防災に関してご家庭で取り組んだこと

例：避難場所の確認 家族の防災会議 非常持ち出し品の整備 保存食の確保 等

④ 次年度は「防災コミュニティ&コミュニケーション～北之幸谷から山武郡市へ『防災ユニバーサルねっと』を広げよう～」というテーマで取り組む予定です。「防災コミュニティ」をキーワードに地域との連携強化を図る。「山武防災ユニバーサルねっと」をキーワードに取り組みの発信と連携の拡大を図る。「防災マルチパーテーション」「防災ピクトグラム（避難口のように誰でも見て分かる図）」などをキーワードに、開発した防災用具を日々の学習で活用したり地域で活用したりできる方法について検討する。そして、命を守る力を育てるための防災教育を本校の教育活動の中で日常的に行う取り組みをしていきたいと考えています。今年度の反省を踏まえた次年度の取り組みや、防災教育に関わることについて自由にご意見ををお願いします。

※お手数をおかけしますが、取りまとめて学校までお願いします（担当：瀧川）。

